

園長のまなざし

第4回

春の1日

福永 恭子

四月、いつの間にか園庭は桜やチューリップが咲き、もみじやいちじょう、メタセコイアが芽吹いて美しい季節となっています。

朝、門に立って子どもたちを迎えた後、私は（さあ、お手伝いに行かなくちゃ）と、いそいそと年少組の部屋に向かいます。部屋の前でなかなか離れられない子どもの母親に目で合図を送り、離して部屋に入れて入ると、その子どもは泣くかと思ったらけろっとしていたり（Aちゃんもすっきりするきつかけを待っていたのね）、部屋で大きな声で泣く子どもを連れ出して手をつないで歩いていたら、大きい組の子どもがしていることに興味をもって気分転換になったり（やっぱり子ども同士ってすごいなあ）。

年少児が早く帰って一息ついた直後、「えんちようせんせい、たたかいしよう」と年長組の男の子から声がかかりました。戦いごっこができるようになった男の子がまず相手に選んだのは、活発な友達ではなく園長



先生くらいがいいとの判断だと思います。私はフットワークよく（？ まだ負けないわ）、逃げたり、追いかけたり、新聞剣を合わせたり……。子どもの表情を見ながら、私も楽しんでしまいます（しなくちゃいけないことも書類も溜まっているけれど、必要とされているときにはできるだけ……）。

不思議なもので、同じような一年でも、毎年毎年こんなに違うのはなぜなのでしょう。子どもたちが、
“今、ここで新しく生きているから” “今を一生懸命生きていくから” ということを教えてくれます。子どもたちから元気をもらい、現在も初めての経験ができるのは、この仕事ならではのよさだと思います。

今年度も、子どもたちが健康で、好きなことを見つけて夢中になって遊んでほしい、自分らしさを出して過ごせるようになってほしい、そして友達と楽しい園生活を送れるようにと願っています。

（東京都 もみじ幼稚園）